

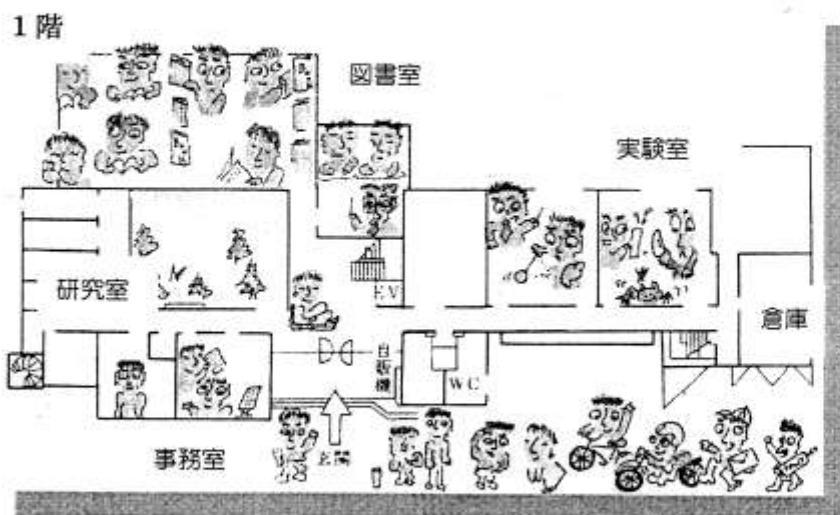
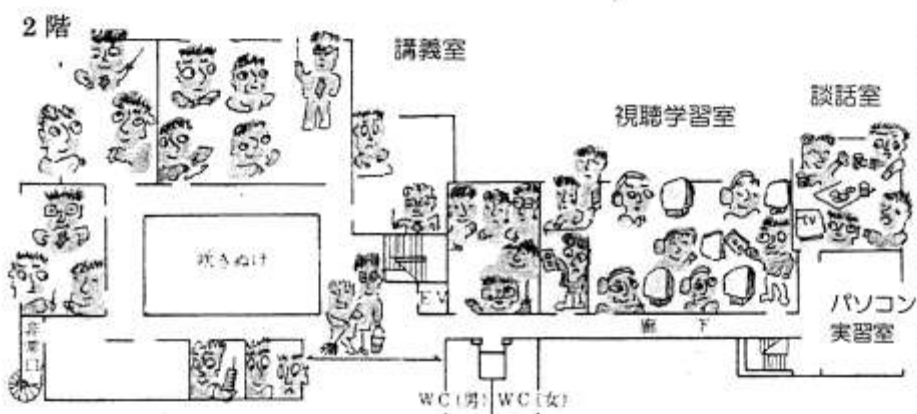
UA 神奈川学習センター

1999年4月1日
第2巻第2号(通巻6号)

はるだより

ハイライト

- 1 学習センターの見取り図
- 2 所長就任に当たって
卒業と学生生活
- 5 新しく入学された方へ
日々考えること
- 7 学生団体・
サークルの活動



放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914

神奈川学習センター所長就任に当たって 新飯田 宏

4月1日付けで、浜口允子先生の後任としてセンター長を務めることになりました。正直なところ、まだ神奈川学習センターのことは何も判っていない文字通りの新米ですが、今はただ、「いつでも」「だれでも」学べる放送大学の地域センターとして、勉学に最適な環境を作っていきたいという思いで一杯です。幸い、当センターは、若くて優秀な先生方や熱心な職員の方々から構成されておりますので、彼等と力を合わせて努力していくつもりです。よろしく、お願いいたします。

私は放送大学にきて3年になります。以来「現代の経済学」というテレビ講義をしています。また昨年度は、この4月からスタートする主題科目「地球環境を考える」の講義に携わってきました。しかし、学習センターでの面接講義としては、これまで神奈川、東京第1、東京第2の各センターで行われた卒業論文の作成を指導した経験しかありません。そこでの私の率直な印象は、学生同士が対話（コミュニケーション）する機会が少ないため、通常友人との会話や討論を通して自然に発生している外部効果という便益を享受する機会を失っているのではないかとことです。放送というメディアによる教育が中心であるために、どうしても学友と接触する機会が少ないのが実状でしょう。しかし、放送大学が生涯学習の教育システム、つまり年齢にふさわしい学び方を追求する教育機関として、さらに学習効果を改善するためには、この点を再検討することから新しい学習システムを開発する必要があるように思います。

私の学生時代を振り返ってみても、優秀な学友との勉学上の討論や日常生活に関する簡単な会話の中から、非常に多くのことを学んでいることに気がきます。とくに大学院時代には、優れた友人に恵まれたという幸運もありますが、友人との直接・間接の討論から受けた刺激やコメントの方が、むしろ先生から教えられたものより遥かに大きかったとさえいえるようです。

とくに、放送大学の学生諸君は、社会人としてそれぞれの分野で既に何らかの経験を持っておられる方が殆どですし、自分の意志で放送大学での学習を選択されたわけですから、それぞれの経験に基づく会話・討論が学生同士で活発に行われるならば、相互に極めて大きな外部効果を及ぼし合うことは確実だと考えられます。その便益を相互に享受するためにも、是非学習センターを有効に利用して戴きたいと願っています。卒業論文作成への意欲も、そこから生まれてくるのではないのでしょうか。

放送大学の学生生活と卒業

放送大学との長いつきあい

寺尾 陽子

851ーと始まる私の学生番号に、驚かれる面接授業担当の先生がおられます。そう、この番号でおわかりのように私は放送大学一期生。とはいえ、6年間のアメリカ生活があり、実際に在籍していますのは、再入学後も含め、8年間程でしょうか。

大学受験に失敗した私は、いつか大学で学びたいという気持を抱き続けており、放送大学開学を知った時、入学したいとまず思いました。しかし、当時2歳の男の子の母親であった私は、今すぐには、無理ではないかと躊躇していましたが、「したいと思ったその時に始めなければ、いつまでたっても出来るものではない」との主人の言葉で、入学を決意しました。更に、彼は「全面的に協力する」と力強いひと言も付け加えてくれました。（そしてこの約束は、私の卒業まで、確実に実行さ

れたのです）そんなある日、「入学祝い」と主人から手渡されたものは、広辞苑と研究社の英和辞典、ズシリとした重みに、学ぶ喜びを実感したものでした。

幼児がいたので、4年間での卒業は初めから考えておらず、全くのマイペース。親しくなったグループの殆どの方が4年間で卒業された年、大学に休学届けを提出し、海外転勤の主人と共に渡米しました。6年後、息子の中学受験のため、主人を残したまま、一足先に帰国しました。渡米直後は英語を100%私に頼っていた子供たちは、しっかりとバイリンガルになり、一方の私は、ほとんど変わらない英語力のままの帰国でした。

帰国当初は、日本のペースに乗れず、人込みで立ち往生したり、駅の切符を買うのにとどつたり（在米中は外出イコール自動車というクルマ社会だったので）等々ありましたが、日本の生活に慣れた頃、再び、大好きな放大的テーマ曲（勝手にそう思っています）をラジオ

で耳にした時の感激は大きなものでした。

復学後の科目選択の際は、在米体験が影響し「国際」とか「世界の…」等とタイトルのついたものに関心を持ちました。実際、それらの科目は、在米中、休暇を利用して旅行した、アメリカの見慣れた風景が放映されたり、リアルタイムで見ていたアメリカのテレビニュースが教材として使われていたり、帰国子女に関すること、或いは移民、人種問題など、身近に感じられ理解しやすいものでした。時の流れは早く、放大卒業の年、入学当時2歳だった息子も中学卒業、2人揃って卒業証書を掲げての記念撮影となりました。

私は現在、東京第二学習センターのアメリカ研究会のメンバーで、英語を通して日米の文化、習慣の違いを学んでいます。英語とアメリカが大好きという仲間たちの自由な雰囲気サークルです。丁度、新しい教材「タイムで見る日本の素顔」を4月から使う予定です。興味がおありの方、一度サークルを覗いてみませんか。

異文化理解には、その国の映画がお勧めと言われていますが、ニュースを見るのも然り。毎朝、NHK衛星放送で欧米、アジアのニュースが2ヶ国語

で放送されています。日常使われている英語の速さを知ることが出来るし、同じ話題でも日本のニュースと視点が異なったりなど、違った世界が広がります。

更に私の知的世界を広げてくれたのはこの放送大学であり、放送大学で学ぶことで、私の人生の後半が豊かで潤いのあるものとなったことは確かです。未知のものへの限りない情熱をこのまま持ち続けていきたいと考えています。

まだまだ放送大学との付き合いは続きます。そして、私は今日もまた、学習センターの片隅に静かに腰掛けていますので、ヨシネ。

大学で学んで欲しい卒業研究

横生 富郎

平成 10 年 9 月に、3 年編入後 2 年半かけて卒業致しました。老年期に入った私には、記憶力の低下する中で、100 点満点ではないにせよ、それなりの成績で卒業出来ましたが、何か大学で学んだと言う充実感がないまま卒業してしまったような気がしています。

入学の動機はいろいろありましたが、何と言っても 40 年間の会社員生活はその企業にある Sub-culture の影響が大きく、これからの 15~20 年間、住み、生きるであろう地域社会と企業の文化にギャップがあるような気がして、曖昧な点を明確にするために、もう一度学び直したいと思ったからです。成果としては未だ漠然とはしていますが、頭の切り替えがそれなりに多少なりとも出来たように思います。

40 数年前、新制大学が発足して間もない頃、駅弁大学工学部で学び、卒業しました。当時の大学は兵舎を改造した冷暖房もない校舎で、図書文献類、実験器具も少なく、非常に大変な状況で卒業研究を行いました。しかし、少ない中でも、実験器具を工夫し、手作りし、ダルマストーブを囲みながら議論した先生、上級生、同級生からの協力により、研究論文をまとめた思い出は忘れることの出来ない体験であり、今でもその人たちとの貴重な交流は続いています。大学で学ぶことは基本的技術、理論もその一つであることは間違いないと思いますが、卒業研究を通して、ものごとの問題解決の方法を学ぶことに意義があるように思われるのです。その問題解決が技術的なことであっても、そこには人間関係が存在しています。未だ技術進歩の少ない時期でしたので、解らないことが沢山ありました。少ない外国文献を分担して調べる、実際に商品化している企業に聞きに行く、今までの研究結果を見直す等々、コン

ピューターの無い時代に、一人ではとてもまとめることの出来ないことをお互いに助け合い、議論して、各自の研究をまとめたのです。

今回、卒業はしたのですが、3 年編入と言うこともあり、卒業研究を受けずに「卒業させられた」と言う感じがしています。この大学の性質上、知識を詰め込むだけならよいのですが、先生と生徒間の表面的でない本当の意味での交流はゼロに近いと言えます。大学で学ぶ最も大切な主張と受容に基づく議論が非常に少ないため、本当に学んだと言う意識が希薄であることは否定出来ません。これから学ぶ方々には是非、卒業研究を受け、本当の議論が出来ることを学ぶようお勧めしたいのです。

また、放送大学が今後より発展するためには研究の要素と、人との関わり合いをいかに取り入れたシステムにするかが大きな課題ではないでしょうか。卒業研究なしでの卒業認定は改悪のように、思えてなりません。放送大学を出て本当に良かったと実感出来る大学になることを願っております。



大学と私

三木 さと子

放送大学が新構想の大学としてマスコミに登場してから、その開学を待ち望んでいた。看護婦という私の条件にピッタリと合った大学であり、看護婦としても、個人としても勉強し成長したいと思っていた。それまでは、三交代勤務をしながら、家事をして子育てをの夜間大学はとても無理とあきらめていた。自宅から地下鉄一本で、勤務先からも私鉄で通える放送大学の開校は、大変うれしく有り難いことだった。昭和 60 年 4 月に第一学期が始まった。勤務の合間を工夫しての面接授業出席、レポート提出、テストと予想以上にハードな一年間が過ぎた。記憶力、視力など若いときは比べられないほど減退していた。時間が絶対的に足りないという現実にもぶつかっていた。三学期制だったので休む暇なく勉強し続けた。

卒業は何年かかってもよい、内容をつかむことに力点を置き、じっくり学

ぶことにしようと、心に決めていた。けれども、面接授業の休憩タイム時に、卒論の話が出るようになり、いつしか私も焦りを感じるようになった。何とか 3 年次までに、卒論を取るための条件の単位数を取得して、みんなと一緒に、卒論を書こうという気持ちになっていた。しかし、家庭と職場で手抜きは許されない。家族の協力に支えられながら学ぶことの楽しさ、家族の在り方や日常的なことについても考え、今迄認識し得なかったことについて思いまた疑問を持ち、いままでの視点を変えることができたと思う。

放送大学が二学期制になり、外国語単位取得も 8 単位から 6 単位に変更され、卒論も必修ではなくなった。さらに、平成 10 年度には、全国化が行われ、名実共にいつでもどこでも学べる大学になった。

看護管理学会に出席した折、鹿児島や奈良から来た方々から、「放送大学で学位を」という言葉を聞き、うれしく思った。私もじっくり学び、学ぶことにより仕事の中で、患者さんと共感でき、自分の心が新鮮になれるように、さらに 3 回目の卒業を目指して頑張ろうと考えている。

長かった道のり

直江 勉

私が三歳の時です。当時の記憶は殆どありませんが、母が白衣の医師と看護婦に付き添われて、自宅から担架で運びだされたことが、今も脳裏に鮮明に焼きついています。

当時はその真実も、また我が家にとってどんなことになり、それが自分の運命にも係わることになるのか理解できる筈ありません。しかし、学齢期に達する頃になると、事の顛末を聞かされ、子供心にもこれは大変なことである、と思いました。母は、出産で胎児が胎内で死亡したため、胎児を切断して出さざるを得ないとの医師の診断に、そんなむごいことはできない、私の体がどうなってもいいから、切断しないで欲しいとの懇願したそうです。無理やり機械で取り出したので、大量の出血でした。命は取り留めたものの、そのまま病院へ運ばれたとのことでした。

当時と今では医学の進歩にも違いがあり、判断も異なるでしょう。けれども、帝王切開という方法がなぜ考えられなかったのかと悔やまれます。現在のような医療保険制度も不備で病院の支払いは全て現金であったため、その後我が家には医療費負担が重くのしかかることになったのです。といって幼い子供に家計の手助けが出来る訳もな

く、私が小学校三年の時、農家にとって家族同然の農耕馬を、とうとう手放さねばならなくなったと聞かされた時、家計の実態がそれ程ピンチだったのかとショックを受けました。

その後も母の医療費支払い延々と続き、父はその金策の足しに現金収入を得るため、昼は土木工事で働き、夜月あかりで農作業をしていました。父は、無理がたたって健康を損ねてしまい、私は中学卒業時進学を諦めざるを得ませんでした。まだ一人前とは言えない二つ違いの兄一人ではとても無理なので力を合わせ、六年間農業を手伝いました。兄の結婚を機に長野県の畜産課の出先機関である県立種鶏場に職を得ることができました。

朝早くから夕方暗くなるまで働く農作業に比べ、随分時間に余裕があるので定時制でと考えたのですが、当時月二回の宿直があり無理なので、県立長野西高等学校の通信制へ入学しました。諦めていた高校で学べる嬉しさがありました。周囲にはその後数学者として一橋大学の教授になった者や、国家公務員の上級職に受かり外交官になった者など、逸材がおり大いに刺激を受けました。私の場合社会人としてスタートでハンディがあるので、少しでも差を縮めようと気合を入れたこともあって、二年半で高卒に必要な単位が取れてしまいました。引き続き大学の通信教育で学びたかったので問い合わせたところ、高卒の単位取得済みでも二重学籍になるので入学許可出来ないとのことでした。すでに故人となられたが当時の教頭先生に相談したところ、一年半も待つのは気の毒との恩情で、もう30年余も前で時効かと思えますので、大学提出の書類を特別便宜を計って頂きました。そして四年目は慶応義塾大学経済学部の通信制学生として勉強することが出来ました。大学では四年間六週間の夏期スクーリングが仕事との両立に大きな負担でしたが、それも何とかクリアしたものの、その間に期するところあって民間企業へ転職したため、103単位取得のまま仕事が忙しく暫く中断せざるを得なくなりました。また心に期した会社創業等々の事情もあって、いつの日か復学をと、思いながら果たせず、やっと会社も順調に推移してきたので、何とか残り21単位なので区切りを付けようと大学へ確認したところ、三年以上のブランクがあるので一般教養の36単位は認めるが、スクーリング単位も含め他は再履修とのこと。また四年間六週間も会社を留守にすることなどとても無理で、長い間ずっと諦めていました。

放送大学が関東圏で実施されていることは知っていたが、残念ながら長野では電波の受信が出来ずこれも不可能と諦めていました。ところが諏訪で面接授業やテストが受けられることを知り、早速手続をしたところ慶応の単位が認められて三年次編入させて頂き再挑戦することにしました。しかし、社業の傍ら業界や地域の役など幾つも抱え、それに伴う夜の付き合いや雑用も多く、学習時間の確保がなかなか取れないので、三年次編入の最大年限である六年計画を立てて始めました。テストの準備もままならず、自分としては誠に不本意な低空飛行の成績ながら、なんとか四年で必要単位を取得、五年目は卒論のみ、東京と幕張の大学本部での合宿ゼミに通い、計画を一年短縮の五年間放送大学にお世話になり、平成8年度卒業させて頂きました。

慶応で103単位、放送大学で71単位合わせて174単位で、やっと自分なりに区切りをつけることができました。私にとって、特別な裁量で進学させて頂きながら、大学を中途半端なままにしたくないとの思いがいつも心の隅にあり、長い道のりではありましたが、母校と今は亡き教頭先生に面目を果たせホッとしているところです。先生の墓前に花を手向け、卒業証書を持参報告して肩の荷を下ろすことが出来ました。そして何よりも叶わぬ夢と諦めていたのに、それを叶えてくださった放送大学に感謝します。



メモリアル・シーン

本沢志津子

卒業シーズンになると、春の風物詩のように、袴姿の女学生をよく見かけるようになります。矢絣の小紋のきものに葡萄茶色(ぶどういろ)の袴を付け、編み上げのブーツを履いた、まるで大正時代の「ハイカラさん」のように装ったり、振袖に袴といった華やかな装いにしたり、あるいは、紋付きの色無地のきものに紺や紫の袴のように、オーソドックスに装ったりと、最近では、きものと袴の組み合わせも変化に富んでいるようです。袴姿の彼女たちはもちろんでし

ようが、周りで見ている私達も楽しくなります。新たな思いや希望を胸に巣立つ時、一生に一度の、メモリアル・シーンの記念として、袴姿を選ぶのかもしれませんが、現在でも、卒業式に女教員が袴姿で臨む学校があるようです。

袴姿は、三月の雛飾りで見るように、もともとは宮中の女官の装いでした。明治の初期、「学制」がしかれた折、女学生の制服は、きものに袴と定められました。その当時の女学生の袴は、紺色か葡萄茶色(ぶどういろ)の、「サージ」と呼ばれるウール地のものでした。ちなみに、女教員は、教壇に立つ時には古代紫や紺色の袴を付けました。

普段は、「御召(おし)」(公家や将軍など、高貴な方の御召物を意味することからこの名が付いた。左捻り、右捻り、と方向の違う強い捻りをかけた糸を織り込み、微温湯に入れ、縮緬より細かい「しぼ」を立てた絹織物)や「銘仙」(実用呉服としてのきもの)など、織りのきものに袴を合わせていました。編み上げの靴を履くため、袴の丈は、かなり短めでした。一方、式典など正式な場では、紋付きのきものに袴、そして編み上げの靴ではなく草履を履きました。又、「おしやれ」や「およばれ」などの時は、小振袖や振袖に袴を合わせたそうです。

女袴は、男袴とは違い、「行灯袴(あんどんばかま)」といってスカートのような仕立てになっていますから、歩きやすく、着付けや立ち居振る舞いが楽です。又、能などで付ける袴は、「馬乗袴(うまのりばかま)」と言い、裾(すそ)を高くしてあり、ズボンのように仕立てられています。

大正2年、宝塚に少女歌劇団(現在の宝塚歌劇団)ができました。制服に、グリーン(緑)の袴と高めの草履を用いたところ、当時、編み上げの靴を履いていた女学生には、かえってモダンなスタイルに映ったのでしょう。宝塚ファンの女学生達は、競うように真似をし、グリーン(緑)の袴に高めの草履といった、いわば「宝塚スタイル」が流行したそうです。まことに女心とは面白いものです。そう言う私も袴姿に憧れる一人なのですけど・・・。

卒業式や入学式など、数ある貴女のメモリアル・シーンを、日本の伝統の袴姿やきもの姿で美しく着飾ってみましょう。いつもと違う印象の自分に驚くはずですよ。そして、新しい自分を発見するかもしれません。

入学・卒業・再入学

越川 敏子

私の自慢、それは放送大学の学生の全種類を修了したことです。最初は科目履修生として入学しました。フランス語Ⅱだけでした。すぐにそれだけでは物足りなくなって、選科履修生になり、いまはもう廃止された特修生を経て、全科履修生になりました。

専攻特論は福井芳男先生にお願いして、『翻訳における文体の研究』というテーマで提出させて頂きましたが、フランス語の能力から考えると本当に冷や汗ものでした。

卒業後は研究生として、東京第三学習センターの杉浦克己先生の国語学研究室で、「ハ文」と「ガ文」についての勉強をさせて頂き、これで学生の全種類を修了したというわけです。特修生が廃止されたので、この記録はもう破られる心配はありません。

放送大学の学生の特徴は、一度入学するとなかなか出て行かないことだと思います。あれもやって見たい、この課題も面白そうと、やめられなくなってしまう。Study-aholic とでもいいでしょうか。二回目、三回目という卒業生がどれ程多いことでしょう。同窓会の会員のなかに在校生がこんなに沢山いる大学など、ほかにあるでしょうか。

自分が勉強したいときに、好きな科目を選んで勉強できる、こんな贅沢な時間を持てることを感謝しています。

日々考えること

障害者スポーツをもっと見て下さい！

阿部 幹雄

障害者スポーツを知っていますか。思い浮かぶのは、車椅子バスケット、水泳、マラソン、スキー、卓球等でしょうか。障害者スポーツは、もともと、リハビリテーションの一環として始められましたが、現在では、「競技」としてのスポーツに確立されています。アトランタ・パラリンピックの水泳で5個のメダルを獲得した成田真由美さんや、長野冬季パラリンピックのアイス・スレッジ競技で金メダルを獲得した土田和歌子さんなどは、よくマスコミで取り上げられているので知っている方も多いと思います。

障害は、大きく4つに分類できます。目の障害である「視覚障害」、小さい頃から耳が聞こえず話すこと

新しく入学された方へ

入学おめでとう

坂田 洋一

ご入学おめでとうございます。新入生の皆さまは初めて学習センターにいらして学生証など作成して貰い、図書室や視聴学習室など見学されて、これからの学生生活に想いを巡らせておられることと存じます。

1年も過ごせば試験や面接授業も体験し、そこで知り合った友人とも情報交換できて慣れてくるとと思いますが、入学間もない頃は勝手が分からず、戸惑いもありましょう。このささやかな体験談がほんの少しでもお役に立てれば幸いです。

・通信指導について：通信指導は学期開始後1ヶ月ほどで送られてきます。いくつかの選択肢から選んで解答するマークシート方式と指定内容を指定字数でまとめる記述式の2通りあります。この通信指導は試験を受けるための開門ですので、締め切りに遅れるようなことがないように、きちんと解答していれば、まず大丈夫です。

・試験について：試験も通信指導と同様に記述式とマークシート式の二通りあります。通信指導の出題範囲は1章から8章となっておりますが、試験は9章から15章を重点的に出題されるとは限りません。試験では難問奇問の類は出題されませんので、放送授業を受けて、教科書をきちんと勉強しておけばそうそう落とされることはないと思います。科目によっては教科書やノートを持ち込み可の科目もあります。持ち込み可で安心しているとかなり難しい問題が出て「しまった！」ということもあります。

・放送授業について：放送授業は毎学期試験後に集中放送期間があります。次の学期に履修予定の科目など、このときにビデオなどに録画しておくというのも一つの手です。

・来年度の科目について：放送大学教育振興会の出している図書目録で次年度の刊行予定図書を見れば次年度の新規開講科目、改訂科目の予定を知ることができます。図書目録は図書室などで配布されています。

・図書室について：図書室は学術雑誌や参考図書などの他に図書の検索端末や紀要、卒業研究の論文集なども置いてあります。検索端末で探した図書は神奈川センター所蔵のものでなくても貸し出し申請することができます。なお、図書検索は放送大学のインターネットサイトからも可能です。

最後に学生証のメリットについて：学生証は映画館、美術館やコンサートなどの割引の他にパソコンソフトにも利用できるものがあり、アップグレードよりも新規の学割版の方が安いなんてこともあります。

学ぶということ

奥田 さつき

大学というところは、大体4年程度在籍してその間に、自分の学びたい科目を道路によって選択して取ってゆくもの…というのが普通でしょう。学生の年齢もほとんど同じ。しかしこの放送大学はかなり変わっています。家にいながらエライ先生の講義が視聴できることからして、他の大学とは違っています。

目の見えないひと、知的障害を持つひと、持病を持つひと、赤ちゃんがおなかにいるひと、車椅子のひと、健康なひと…色々なひとが同じセンターで学び共に頑張っています。卒業＝学士の資格を目指すのもよし、学びたい分野だけ学ぶのもよし。テストなんか関係なく勉強しているという人もいます。ひとそれぞれです。

かく言う私は選科生で入学して今年で3年目になります。高校をやむなく辞めてしばらくは家で何もせずにいました。いつからか家以外の居場所が欲しくてこの大学に入りました。始めの動機はそんな些細なものでした。今まで受験勉強的な学習しかしてこなかった私にとって、未知の分野をひとつふたつと科目を取って学んでいくことは難しいけれど、とても楽しく有意義なことでした。『卒業』を目指し日々頑張っている全科生もたくさんいます。でも私はあえて『卒業』ということにこだわらずに、知りたいこと、学びたいことを自分の中に取り入れていけたらいいと今は思っています。

始めのうちは戸惑うこともあるでしょうけど、テストや研修旅行、行事に参加していくうちに慣れていくと思います。これからそれぞれの目標に向かってガンバッテネ！

ができない「聴覚言語障害」、事故や病気などで手足や内臓に障害を持つ「肢体障害」そして「知的障害」です。さらに、同じ分類の障害でも、一人一人、障害のレベルが違います。そのことを理解した上で障害者スポーツを見て下さい。以下、主な競技を紹介します。

まずは、陸上競技です。短距離走では、全盲の選手は、前方の音だけを頼りに全力で100メートルを走ります。また、下肢に障害がある選手は、義足を付けて走りますが、健常者と思わせるほどのスピードと迫力があります。車椅子の中距離レースでは、片腕の車椅子の選手は、両腕がある選手と一緒に競技を行いますが、片腕だけでどのようにして車椅子を真っ直ぐに走らせ、コーナーを曲がるのでしょうか。車椅子マラソンでは、フル・マラソンと同じ42.195キロを走ります。単純に比較はできませんが、フル・マラソンのトップランナーは2時間10分前後で走りますが、車椅子マラソンでは1時間30分です。腕の力だけで、どれほどのスピードで走れるのか、それを確認してみてください。

次に、水泳です。全盲の選手も、一般の競泳と同じように、飛び込み台から飛び込んでスタートします。全力で真っ直ぐ泳ぎ、ターンをし、そしてゴールします。ターンをするタイミングやゴールはどうやって判別するのでしょうか。脊椎損傷による肢体障害の選手は、クロールや平泳ぎ、バタフライなども、腕の力だけで泳ぎます。また、両腕のない選手は、足だけで泳ぎますが、息継ぎはどうやってするのか、あるいは、普通、ゴールは手を壁について判別しますが、彼らはどうやってゴールを判別するのでしょうか。その他、両足がなく、更に片腕のない水泳選手も頑張っています。

球技では、特に、車椅子バスケットが有名です。車椅子さばきや、車椅子からのシュートは見応えがあります。また、視力障害の選手によるソフトボールや卓球などの球技がありますが、どうやって競技するのか想像してみてください。その他、四肢に麻痺がある選手によるツイン・バスケットやラグビーなどもあります。

さらに、ウィンター・スポーツでは、チェアスキーやアイスホッケーなどが行われます。

オリンピックの後に開催されるパラリンピックと同じように、毎年11月頃、国民体育大会の後に全国身体障害者スポーツ大会が開かれます。1998年度は、神奈川「ゆめ国体」

の後、新横浜（横浜市港北区）にある横浜国際競技場を基に「ゆめ大会」が開催されました。私も、横浜の代表として陸上競技と卓球に出場しました。その他にも、陸上や水泳など、各競技別にそれぞれの都道府県で競技会が開催されています。障害者スポーツに関する色々な疑問や興味を持って、是非、観戦して下さい。そして、選手の皆さんが、それぞれ自らの可能性を信じて創意工夫をし、精一杯努力する姿に、心からの声援を送って下さい。必ず、何らかの感動や発見があると思います。



大学公開講座に参加して

大塚 幸雄

神奈川学習センターの掲示コーナーで知った、Y 大学教育学部主催の公開講座『世界の学校と日本の学校』を昨秋受講した。参加者は全部で160名ほどで、小中学校の先生方が多く、私のような一般の社会人は少数だった。

教師を育てる先生方による講義ということなので、教え方のモデルとなる講義を期待したが、それはかなり難しい注文であることがわかった。講師のなかには、スライドの操作を学生に任せ、実際に操作するとうまくいかなかったり、説明があちこち飛んで資料をめくるのに忙しかったりして、聞く身になって話すことを考えない先生もいた。東大に再入学した歌手の小椋桂が「大学の先生は研究熱心であるけれど、魅力的に教えることには意欲を持たないし、実際に技術も足りない」と新聞で言っていたが、そのとおりだと思った。

けれども、今回の公開講座のなかで、ブラジルの例について話された M 先生の個性的な話振りは、印象的だった。学級崩壊についての質問に対して、学校の先生が有りのままの自分をさらけ出して、自分を見つめ直すことの必要性和、教師間の連帯の重要性を強調されていた。帰国子女であった経験からの話であった。

それから、フランスのリセ試験問題についての S 先生の話は、エリート育成はどうあるべきかという根本的な問題であり、魅力的な話術を展開してい

るように思われた。フランスのエリートのように、日本のエリートも記憶力の良さばかりで評価されるのではなく、思考する力や行動する能力によっても鍛えられるべきだと思った。共感できる講義であった。

一番聞きたかったのは、ドイツのシュタイナー教育についての講義であったが、残念ながら仕事で参加できなかった。シュタイナー教育の核心にあるのは、「人智学」と呼ばれることからわかるように、知性偏重の打破を目指して、子供の発達段階と個性が重視される教育であるとのことだ。教育の荒廃が問題とされる今、子供の成長と学校教育の在り方について考えることは、私達自身の生き方と日本の社会の在り方を問うことでもある。その意味では、今回の公開講座に臨んだ目的は充分果たされたと考えている。

歴史の断片

堀 次郎

第二次世界大戦終結から55年がたった。曲がりなりにも平和と繁栄が守られている。私もお蔭で晩年を迎えることができ、人生の有難味を噛みしめている。しかし、時に心を掠めるものは「あの日、あの時」の遠い記憶の小断片である。

使い古しの大八車に取り付けられた戸板の上に、一面に並べられた沢山の勲章。金鵄勲章功一級から七級まで、勲一等から八等まで、すべて取り揃えられていた。秋の陽に映えて勲章は、鮮やかな色彩を殺風景な町並み一面に放っていた。敗戦直後昭和20年の満洲奉天市のことである。

これらの勲章は、ソ連兵と中国人が掠奪したものを買ひ叩いて得たものらしかった。傍らの40歳台と見える中国人の男は、にこやかに羽根の「はたき」をゆるやかに泳がせながら臆面もなく、私に一つ買わぬかと言う。頻りに勧める如才なさ。中ソ同盟も日本大敗戦も何のその、昨日の敵は今日の友。動乱に乗じて一旗揚げ、一躍成り金にのし上がろうとする逞しい商魂が剥き出しである。この勲章に見た白日夢は私にとって意外にも、「我、敗れたり」という現実感でもなく、また日本の大敗戦の嘆きでもなく、芥川龍之介の洛陽城外に佇む杜子春の如き、茫々たる人生観と、勲章の放つ美的色彩に酔った即物的な一人の男の姿に外ならなかった。

昭和20年9月、奉天市にはソ連の歩兵大部隊、重戦車をはじめとする戦車群、空を圧する重爆機、戦闘機、大型輸送機の大編隊など、大軍団が不法にも進駐してきた。これらの轟音、爆音、ざわめき、剣光帽影で、沸き返ってい

うことである。

学生団体・ サークルの活動

うえるかむ&英会話サークル

＜うえるかむ＞は放送大学を訪問する海外の学生との交流及びホームステイ受入れや、海外の Open University を訪問して、友好を深める海外学生交流サークルです。

今迄に、平成8年にはタイへ、平成9年には台湾の Open University を訪問してきました。平成10年のカナダ訪問計画は実現にいたりませんでした。今年は、会員の語学力向上をめざして、「オーストラリア英語研修と実習…ホームステイ体験」が企画され、2月5日に、1週間ステイ組と2週間組とが共に出発しました。神奈川からは3人が参加しています。

うえるかむ神奈川では、英会話入門

た。日本人は、ただただ茫然自失の態で虚脱、萎縮し、度肝を抜かれてしまっていた。日独撃破の勝利に意気軒昂のソ連将兵。「神国日本、大日本帝国」は消え失せて、日本人すべてが捕虜となっていた。颯爽と行進するロシア美人将校もいた。けれども、これは事態の前触れにすぎず、何もかもが大きく転回し、このあと恐怖の深刻な状態へとめり込んで行った。ソ連軍の掠奪、暴行、無差別発砲は非道だった。9月始め、軽装で良いという日本の召集令状が届いた。それには、ソ連衛城司令官の「親愛なる市民諸君に一言の御挨拶を」という甘い言葉が添えてあり、数万の人びとが着の身着のまま、あつと言う間にシベリアへと姿を消して行った。降伏の詔勅で戦いが終わったというのに、奇怪な事件と思い、私は行かずに逃亡した。女ばかりの都、

奉天では、強奪が横行した。無政府状態のなかで、殺され損の犬死にだけは、何としても避けて生き延びたかった。日本開拓団の終焉こそは、大敗戦最後の締めくくりに大悲劇にほかならなかつた。私たちはその地獄変に、ただただ慟哭するばかりだった。

幼いときから70歳までの私は、何一つ病氣らしい病氣をせず、このような大動乱の嵐の中をくぐり抜けてきた。しかし、81歳の今は、大腸腫瘍、白内障、交通事故による怪我、皮膚炎、高所からの墜落による全身打撲、動脈硬化、気管支炎などを患っている。そのなかで放送大学は私の心の糧である。卒業させていただき感謝している。先生方とのふれあいも忘れられない。晩年に願うことは、平和と良い政治を維持して、賢明な国民であってほしい、尊敬される日本を築いてほしい、とい

インドネシアの風

山本 君代

神奈川学習センターの皆さん、お元気ですか。私は、去年9月まで、1階右奥の教員実験室にながらく生息していた者です。ご存じの方も、ご存じでない方も、多分一度は廊下ですれ違っていると思います。「あゝ、あの人」そう、その人です。現在、ここインドネシアで科学教育の指導にあたっています。モデル高校で物理・化学・生物の教育指導です。インドネシアは1945年、日本、オランダから独立し、スカルノ、スハルトと長期政権の後、去年6月の暴動が引き金で政権交代が起きました。ここまで、日本の援助と石油高騰のお蔭で、ASEANのリーダー格にまで成長していたものの、アジアに吹き荒れる経済不況の嵐に翻弄され今は「為す術もなし」といった状態です。例えば、去年後半、教育予算は緊急予算とかで、いきなり50%カットとなり今年も継続です。（そんな無茶な）

もともと、勤労精神が乏しく、「棚ぼた」指向の国民性が、長引く経済不況に短絡して暴徒化し、中国系商店を襲ったり、押し込み強盗、道路での車強盗等々（おゝ、怖！）物騒な治安状況です。今年6月にある総選挙が、公平に行われるかどうか大きなポイントになるだろうと予測されます。こんな大きなうねりの中、まさにインドネシアのエポックメイキングな時期にリアルタイムで経験できると、怖いものみさと、野次馬根性でワクワクしています。

不況による欲求不満が人々をイライラさせていますが、元来、優しい、穏やかな人々です。見ず知らずの間でも、笑顔が絶えません。「アジアの優しさ」を感じます。もっとも何か依頼して、いつでも「ベソ（明日）」との返答が決して「明日」を意味しないとは最近分かったことですが、これも相手をはっきりさせない優しさ故なのでしょう。

今、まもなく雨期が明けようとしています。私が到着した10月は、ちょうど雨期の始まりで、激しい稲妻、雷鳴、豪雨で歓迎されました。でも、それも3月末までとか。去年は例の山火事多発で空雨期だったそうですが、今年は、ラニーニャ現象とかで洪水、崖崩れによる死者も出すほど大雨です。私も崖崩れで、1週間通行止めにあい、その間、停電になり（冷蔵庫が働かないということ、当たり前ですが）少々慌てました。でも取り乱したのは私だけで、現地の先生方は変化を楽しんでさえたいたが。

ここは、スラウェシ島。首都ジャカルタはジャワ島にあり、バリ島はその東にある小さな島です。私も来る直前に泥縄で勉強し、今までほとんど知らなかったことに驚きましたが、皆さん、どれくらいご存じですか。バリ島には旅行で来られた方も多いのでは？インドネシアとインドシナ（これは国ではなく半島の名）ややこしいですね。1万余りの島々から成っています。それぞれの島にそれぞれの部族が居て、それぞれの言語、文化がありそれらが、1945年一つになって独立しました。現在使用のインドネシア語はジャワ語をベースに新しく作られた言語で、まだまだ発展途上です。この一言語制は、国家統一に果たす役割は大きく、日本のように、君が代、日の丸の国歌、国旗で採っている国など他に例がないのではないのでしょうか。

とまれ、戦後同時にスタートし、日本は石油資源もない小さな国で、でも現在これほどの経済大国となり、片やインドネシアは、今なお世界の援助に、おんぶに抱っこ。いったいこの差はどこから来るのでしょうか。人はその生まれる時代も国家も選択できないなら、私はこの時期日本に生まれたことを感謝したくなります。

インドネシアに吹く風は、まだ苦く明日への希望の香りすら運んではくれません。人々は、面を上げて立ち向かうとはせず、横を向いています。50年間援助と石油資源でヌクヌク暮らしてきた身には厳し過ぎるのでしょうか。最近また宮沢・外相会談で日本の援助を引き出してきました。1日も早く、どんな風にも毅然と面を上げて立ち向かってもらいたいものです。（日本もいい加減金銭援助はやめようよ）

まもなく、留学生会館の桜も大岡川の桜も美しく咲きそろう頃でしょうか。インドネシアにはどんな花が似合うのか、任期2年の間に見つけて帰りたいものです。

(NHK 特選)、プリント、海外旅行の情報交換などの他、今年は mag mag で配信される英字新聞の記事を題材にして講読することになりました。

例会・各支部合同 毎月1回程度

東京西日暮里にて 13:00～

神奈川学習センター

第3木曜日と第4水曜日 13:30～15:30
＜英会話サークル＞アメリカ人女性 Ms. Nancy Anderson による生きた英語での会話練習をしています。

例会・神奈川学習センター

第2と第4の水曜日 10:00～11:30

外国の人と英語で話をする時、頭の中が真っ白になったり、うろたえてしまったりすることがあります。このサークルでは、英語に慣れ親しむように、英語を落ちついて聴いて、話せるようにと思ひ、皆で楽しく努力をしています。

連絡先

星 045-844-9647

坂本 0467-31-8036 (19時以降)

人間学研究会

人間学研究会は、「人間の本質的・実質的なありかたについて、多面的な視野から研究するとともに、会員間の交流と親睦をはかる」ことを目的に活動しているサークルです。本会は「人間の探求」コースを専攻している学生のためだけのサークルではありません。専攻に関係なく、会が認めればどなたでも自由に入会できます。

主な活動内容 ○例会：月に1回実施。内容は会員からの話題提供と討論が中心ですが、本学内外の先生にお越し頂いての講演会も開催しています。

○会誌：年に1回、会誌「せせらぎ」を発行しています。

○学園祭：8月に実施される神奈川学習センターの学園祭「フェスタヨコハマ」を、他サークルと協同で実施しています。今年の実施日は8月29日(日)で、渡辺先生の講演や園芸大会、ビアパーティーなどを予定しています。

○その他：「歩きましょう」の名のもと、有志による自由参加で、神奈川県各地や「奥のほそ道」などを巡っています。

○会費：会費は年間2,500円です。

行事予定 (99/4～99/7)

【例会予定】

・4/4(日) 99年度総会 5/23(日)、6/20(日)、7/11(日)は例会です。なお、フェスタヨコハマは、8/29(日)の予定です

【歩きましょう予定】

・4/3(土) 第4回奥のほそ道を歩く
栗橋～間々井まで「奥のほそ道を歩く」は、適宜実施します

・5/13(木)～17(日) 屋久島を訪れる

有志で実施します

・5/18(火)～20(木) せっかくウォーク
せっかく九州の南端に行くので、有志で開聞岳、高千穂峰、霧島山に登ります

連絡先：大出 鍋蔵 (0468-41-7937)

放送大学同窓会

近況：(1)平成10年12月4日に、放送大学との懇談会が行われました。大学からは吉川学長、嘉治副学長、阿部副学長他5名。同

窓会からは鈴木連合会長他5名で、神奈川からは藤井が出席しました。学長は「大学の現況と今後の展開について」話され、その中で同窓会は重要な組織と認識している、との言葉に出席者は大いに力づけられました。

(2)3月14日にフォスタープラン講演会を開催いたしました。今回は講師として(財)フォスタープラン協会の東南アジアチーム松本さんをお招きしました。またエルニーニョ災害への特別寄付について、広本さんから報告していただきました。なお、同窓会フォスタープラン実行委員会では自己負担でのタイ訪問を計画しております。問合せ：田沢 TEL0468-66-6050(NBB02754@nifty.ne.jp)

(3)3月21日、同窓会主催の恒例の卒業祝賀パーティが国立教育会館で行われました。神奈川からも6名の役員が司会などのお手伝いで出席しました。

行事予定：(1)5.16(日)13:00～通常総会、講演会・懇談会、場所：神奈川学習センター

講演会は神奈川学習センターの笠原助教にお願いしました。

(2)6.20(日)動物とのふれあいと虫観賞、横浜動物の森公園(都築)

(3)10月、鎌倉散策(第5回)

連絡先：藤井 輝 (0467-86-3187)

神奈川放友会

お知らせ：新入学の皆さん入学おめでとう御座います、入会の勧誘を兼ねた放友会からのお知らせです。神奈川放友会は会員相互の親睦を図り、学習を援助するために下記の活動をしています。

- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表
- ・研修旅行(大学本部・図書館等)
- ・社会探訪(博物館・名所史跡等)
- ・機関誌発行(不定期)

特に学習に関する情報交換に力を注いでおり、会員からの情報を基に学習履歴データベースを作成し一覧表にして配布、着々と会員相互の情報交換を進めています。

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を広げたい方に入会をお勧めします。

行事予定(4月～8月)

4月11日(日)新入会者歓迎会

5月9日(日)総会・月例会

6月6日(日)旅にしよう会

(日帰り旅行 行き先未定)

6月26日(土)月例会・研究発表

8月29日(日)フェスタ・ヨコハマ

(注：フェスタ・ヨコハマは学習センター所属の学生団体が共同で主催する学園祭で今年は渡邊二郎教授の講演と例年通りのビアパーティを予定しています。)

照会/入会申込 連絡先

〒235-0023 横浜市磯子区森 1-15-1 810 号

吉田 昭二 Tel/Fax 045-752-2783

放友会の活動報告

篠崎 知恵子

2月27日(土)放友会で希望者により、箱根日帰りに行って参りました。

男女各7名と、丁度同数でした。小田原に集合し、各自小田急クーポン券(自宅から小田急の人は、そこから)を買って、出発しました。これは、電車とベコニア園温泉

が割引になっていて、移動にも便利です。午前中雨の予報が朝の内に上がってしまい、暖かでした。

初めに、入生田で「生命の星・地球博物館」を見学。入場券は学割で購入。ミュージアムシアターでは、15分程の上映が1時間毎にあり、その合間に館内を見学しました。地球、自然に関する展示は、結構迫力があり、岩石・鉱物の結晶等、種類も多く、宝石の原石や化石と珍しいものに感心しながら、回って行きました。動物も各種展示されていて、大型生物ゾウアザラシや、始祖鳥の大きさにもびっくりしました。神奈川の自然についても特集されていて、身近な自然の大切さを考えさせられます。ライブラリー、レストランもあり、売店では化石類も売っていて、子供は興味の有るところではないでしょうか。3回目のシアターでは、インタラクティブ参加型上映で皆楽しめました。こは、有名な松重桜も駅の反対側にあり、桜もいいとこいいながら、次に湯本に向かいました。

駅前からのシャトルバスに乗って、「箱根ベコニア園」に到着。最近、ここに温泉が出来て、温室で花をみて、温泉も同時に楽しめる所となっています。昼食の場所は、広々として、大きなガラス窓により、木々の風に揺れている様子を目の前にしながら、ゆったりとした気持ちで、食事をしました。この真下がお風呂となっています、食後は、ベコニア温室を散策。ばたんのような花に囲まれ、写真という事になります。パーラーもあり、ようやく、お風呂に入ろうかと、ひめしらの湯に向かう。湯船も大きく、露天風呂もあって、山に抱かれてすっかり暖まりました。

次に、風祭の「ビール蔵」で打ち上げです。時間がなくて途中で残念ながら帰った人もいますが、ここから、出席の人もいました。ドイツのオクトバーフェストのような、天井の高い広々とした所で各種ビールと共に、あれこれと食べてすっかりくつろいで、それでも6時です。神奈川は、山あり、海ありと自然に恵まれ、行く所は限り無く有るようになります。又、次を楽しみに帰途についたのでした。

神奈川学習センターだより編集部

発行者 新飯田 宏

編集者 五十嵐、遠藤、星、加藤、

松本、皆川、吉田、斉藤、坂井

・Internetのホームページは、

<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>

・Eメールの宛て先は、

social@u-air.ac.jp

・今回のイラストは、中山さんと早瀬川さんに描いていただきました。次回は、「面接授業」について、特集をくむ予定です。

・学習センターで人事異動がありました。浜口允子前所長、真畑健氏、杉浦秀満氏ご苦労さまでした。新飯田宏所長、吉宮香里氏、浅野芳治氏、斎藤あけみ氏が新たに着任しました。

・キャンパス・ネットワークのID番号とパスワードを4月15日から、学習センター窓口で配り始めます。センターでインターネットと電子メールを行うことができます。